

個別施設計画

策定年月 R3.1

施設名	特別史跡旧閑谷学校		所在地	備前市閑谷784	
敷地面積	32,507.53 m ²		棟数	16 棟 (計画記載対象 2 棟)	
延床面積	1,709.54 m ²			※対象は200m ² 以上の建物(車庫、倉庫等は500m ² 以上) ※公舎・寮は全て対象	
設置目的	江戸時代前期に岡山藩によって開かれた庶民のための学校であり、特別史跡に指定され、講堂は国宝に指定されている。				
【想定される自然災害】					
予想震度 5強 津波 — 浸水 —					
建築規制	非線引都市計画区域 用途指定なし				
エネルギー使用量 (2019年度)	電気 36,895 kwh	ガス 0 m ³	水道 600 m ³	燃料 (—) — ℓ	
管理上の 特記事項	敷地内未利用地 なし		敷地内貸付地 なし		

1 施設内建物の概況

名称	閑谷学校資料館	講堂、習芸斎他
築年(西暦)	1905年	1701年
構造	木造 2階	木造 1階
建築面積	431.43 m ²	480.85 m ²
延床面積	862.86 m ²	480.85 m ²
主要な用途 (室名等)	事務室 1室 展示室 8室 企画展示室 1室 資料整理室 1室 休憩室 1室 下足室 1室 倉庫 1室	文化財
主要な設備 (屋外を含む)	消防設備(自動火災報知設備) 空調設備 給排水設備 消火設備	消防設備(自動火災報知設備) 消火設備
利用状況	中	中
耐震性 ※1	無	重要文化財のため適用除外
躯体(コンクリート)の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2	
	中性化 ※3	
長期使用の適否	建物傾斜 ※4	適
	地盤沈下 ※5	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値≧0.6(震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm²未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

2. 対応方針

(1) 施設全体の方針

老朽化の進んだ建物について修繕・改修を行い、使用を継続する。

(2) 建物ごとの方針

区分	対応方針
閑谷学校資料館	設備等の定期更新を実施する。
講堂、習芸齋他	予防保全を図る。

3. 施設全体のスケジュール

(概要)

設備更新等
劣化の状況を確認しながら、設備等について順次更新を行う。

(単位:億円)

区分	対応方針	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
閑谷学校資料館	設備等の定期更新 (修繕・改修を含む)										外壁 改修等
講堂、習芸齋他	予防保全				予防保全を図る。						

4. 概算費用

--

5. 変更履歴

変更年月	変更内容
R8.3	資料館において、外壁等の修繕のスケジュールを追加